# 「燃料体の処理」174体を完了

## 目標工程を安全かつ確実に進めるための取組み

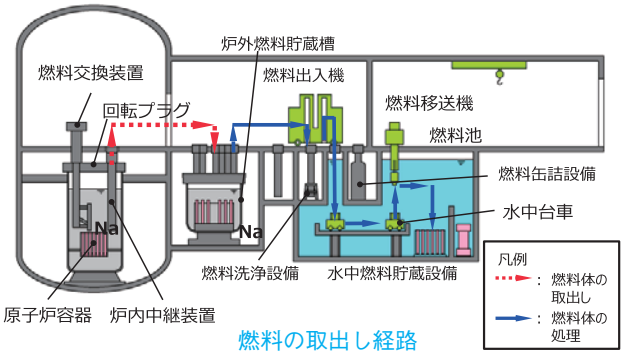
### グリッパ開閉の不具合に対する対策を実施

「もんじゅ」では、廃止措置計画に基づく第1段階として、原子炉容器内に貯蔵している370体と炉外燃料貯蔵槽内に貯蔵している160体の燃料体を全て燃料池に移送・貯蔵する作業を2022年12月までに完了させるべく、2018年8月から継続的に実施しています。

2018年8月から2019年1月にかけて実施した「燃料体の処理」作業では、燃料出入機のつかみ部分（本体Aグリッパ）にナトリウム化合物が付着し、スムーズに開閉しなくなる等の不具合が発生し、何度か作業の中断を繰り返すこととなりました。

この不具合は、燃料体に付着したナトリウムを燃料洗浄設備に移送して洗浄した際、本体Aグリッパに付着していたナトリウムが湿分によって化合物に変化し、燃料体のつかみ・はなし動作が鈍くなったことが原因と考えられます。

そこで、燃料洗浄槽に設置されている予熱ヒーターをさらに追加する等の除湿対策を2020年1月までに実施し、2月から「燃料体の処理」作業を開始しました。



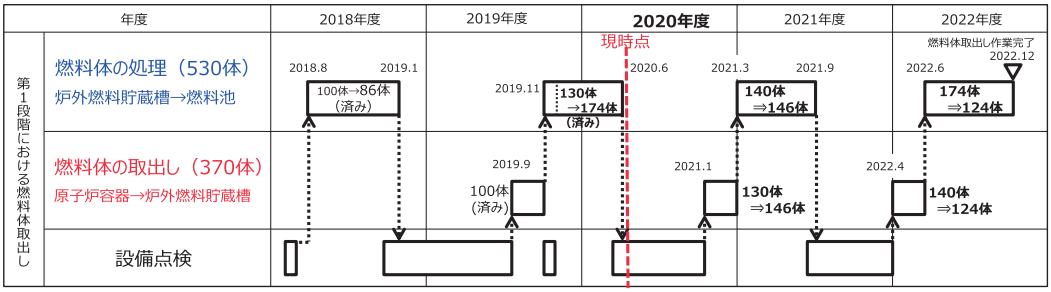
燃料の取出し経路

燃料取扱設備操作室内制御盤類

### 「燃料体の処理」作業後、設備の安全性を確認

前回の不具合に対する対策の効果により、今回の「燃料体の処理」作業は計画通り実施することができ、予定していた130体の「燃料体の処理」作業を4月に完了しました。その後、約1か月間、設備・機器類の中間点検等を実施し、設備の安全性や作業体制の整備等が確認できたことから、「燃料体の処理」作業を再開し、6月1日までに174体を完了しました。

今後も、安全を最優先に着実に廃止措置作業を進めてまいります。



燃料体取出し期間の工程

### この研究に携わっている機構職員

戸田圭哉（とだ けいすけ）
敦賀廃止措置実証部門
高速増殖原型炉もんじゅ
廃止措置部　燃料環境課

2015年に入社後、当直で現場の感性を養い、廃止措置作業の検討を通じてプラントへの知識を深めてきました。これらの経験を活かして現在は燃料取扱設備操作チームのリーダー役に従事しており、業務の効率化や人的資源の最大化を目的に日々業務に励んでいるところです。今後もチーム員が一丸となって「もんじゅ」の燃料体取出し作業を計画どおり達成できるよう引続き頑張っていきます。